

# 令和5年度 パートナーシップ（学校運営連絡）協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 東京都立橋高等学校 全日制課程 パートナーシップ協議会
- (2) 事務局の構成 副校長、事務局長（企画広報主任）、局員（企画広報部）計3名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長(2)、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、企画広報主任、図書部主任、計9名
- (4) 協議委員の構成  
地域企業(2)、地域教育アドバイザー、教育庁関係者、墨田区関係者(2)、警察関係者、消防庁関係者、PTA会長、近隣中学校長、近隣自治会長 計11名

## 2 令和5年度パートナーシップ協議会の概要

- (1) パートナーシップ協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和5年6月23日（金）： 内部委員9名、協議委員9名

協議委員委嘱、委員紹介、令和4年度学校経営報告、令和5年度学校経営計画について、予算概要、転退学率、入選倍率、生活指導、インターンシップ、デュアルシステム、進路指導、広報活動予定、図書館運営などについて、各学年の取り組みについて、質疑応答。

第2回 令和5年10月11日（水）： 内部委員7名、協議委員6名

予算概要、新成績処理システム、身だしなみ指導、学校行事、インターンシップ、デュアルシステム、進路状況、学校説明会参加者数、図書館運営、委員会活動などについて、各学年の取り組みについて、質疑応答。

第3回 令和6年2月16日（金）： 内部委員9名、協議委員5名

施設関係の対応、年間行事報告、身だしなみ指導、インターンシップ、進路状況、年間広報活動学、図書館運営、委員会活動などについて、各学年の取り組みについて、学校評価アンケートの評価・分析

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和5年10月11日（水）内部委員2名、評価委員2名。学校評価アンケート原案の検討。

第2回 令和5年2月16日（金）内部委員2名、評価委員2名。学校評価集計結果の分析と考察。

## 3 パートナーシップ協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

	生徒	保護者	教職員	地域住民
実施時期	12月	12月	12月	12～1月
対象数	533	533	59	
回収数	492	149	59	20
回収率(%)	95.3%	28.0%	100%	
( )は4年度	(92.3%)	(24.0%)	(100%)	(15)

- (3) 生徒、保護者、教職員に関する分析

※「令和5年度学校評価アンケート集計」より。

※以下の①～⑨は生徒対象アンケートの質問項目1～19に対応。

- ① 学校生活の満足度を直接的に尋ねるように質問項目を改めたアンケートを実施。肯定的評価は生徒7

1%、保護者が82%であった。今後も、ものづくり系、ビジネス系、IT系のいずれも学べる特長を活かし、また生徒・保護者の期待に応えるよう努力する。

- ② Webページ、学年通信など情報発信については、教員の肯定的評価が76(97)%となった。一方、生徒は68(63)%、保護者は68(62)%であり、昨年度より生徒・保護者は微増している。ネットによるオンライン授業、Webページへ情報提供の迅速化、YouTubeの活用などの促進を図ってきた。これまで新ホームページに移行し、ニュース・トピックスなどについては、頻繁に更新を行ってきた。今後も生徒・保護者そして中学生とその保護者が必要とする情報を発信し、満足度の向上と定着を目指す。
- ③ 心と体の健康づくりについての肯定的評価は、生徒81(73)%、教職員86(76)%であった。スクールカウンセラーの毎週の来校や1年生全員面接を実施、カウンセリング委員会を開催し、心の健康づくりに力を入れてきた。
- ④ 授業公開や奉仕体験活動など地域との交流についての肯定的評価は、生徒73(66)%、保護者73(68)%、教職員68(74)%であった。新型コロナウイルスが第5類となり、これまで中止となっていた行事が(体育祭や文化祭、授業公開など)実施できたものの、制限ある実施内容となったことで、生徒、教員は昨年と同水準を推移している。授業公開は、6月と11月と2回実施することができたことで、保護者の評価が上がっている。
- ⑤ 地域産業論、インターンシップなど地域企業との連携についての肯定的評価は、生徒・保護者が72(66)%、89(73)%教職員が91(90)%となった。コロナ禍で一昨年中止となった、インターンシップが2月に実施できたことで、保護者・教職員の評価が上がっている。全教員が担当して相手先企業を訪問し、担当生徒を指導するなど全校体制で取り組むことができた。今後も生徒の進路自己実現を果たすためにも、地域企業との新しい連携方法を模索することが必要である。
- ⑥ 少人数指導、習熟度別指導など授業に関する肯定的評価は、教職員は98(86)%、生徒は83(71)%で、保護者は81(79)%となっており。生徒・保護者の評価が昨年を上まっている。特に、生徒評価が高く、学びなおしや細やかな学習指導に対する満足度が高くなっている。今後も生徒による授業評価結果を教員間で共有し、教員相互の授業参観とそれによる授業改善に努めたい。
- ⑦ 補習・補講等についての肯定的評価は教員91(98)%、生徒83(78)%である。生徒の評価も高い。資格・検定取得に向けて保護者からの要望もあり、期待に応えていきたい。
- ⑧ 基礎的・基本的な力の習得については、生徒の74(71)%が評価しており、昨年度と同水準で推移している。指導に一層力を入れ、生徒の基礎的・基本的な力の習得と満足度を向上させたい。
- ⑨ 本校の学習が将来役に立つことについての肯定的評価は生徒82(78)%である。ものづくり、ビジネス、ITを通じたキャリア教育の一層の向上に力を入れ、産業科が産業社会に役立つことを周知させる。
- ⑩ 一人ひとりを尊重した進路指導についての肯定的評価は、生徒83(76)%、保護者83(80)%、教職員86(81)%で、生徒・保護者の評価が昨年を上まっている。今後も学年進行に応じたキャリア教育の実践を通して、生徒の自立・挑戦の支援を行い、進路活動の充実を推進させ、進路実現を図って行く。
- ⑪ 挨拶指導を「している」ことについて「あてはまる」「ややあてはまる」という肯定的回答が、生徒80(74)%、教職員54(67)%である。日頃から登校時や校内での日常で、生徒から挨拶できる習慣が身に付いてきている、今後も挨拶の励行を定着させるため、日頃から全ての教職員による、生徒への声かけ・あいさつなど、人権尊重の精神に基づき、生徒の教職員に対する言葉遣いの指導も行いたい。
- ⑫ 制服の着用及び身だしなみ指導を「している」ことについて「あてはまる」「ややあてはまる」という肯定的回答が、生徒77(73)%、保護者64(70)%、教職員41(38)%であり、生徒の評価と比較して、教員の肯定的評価が昨年同様に低い水準にある。制服の着用指導の目的やあり方を再確認し、指導内容の検討を行う必要がある。今後とも教職員間の共通理解に基づく、一丸となった指導の徹底が課題である。

- ⑬ 遅刻指導等マナー指導を「している」ことについて「あてはまる」「ややあてはまる」という肯定的回答が、生徒82(75)％、保護者74(75)％、教職員45(43)％である。朝の校門における登校指導では生活指導部を中心に全ての教職員で取り組んでいるが、苦勞しているのが現状である。
- ⑭ 部活動、学校行事についての肯定的評価は、生徒66(59)％、保護者57(60)％、教職員73(79)％である。新型コロナウイルスが第5類となり、これまで中止となっていた行事が(体育祭や文化祭など)実施できたものの、制限ある実施内容となったことで、一定の充実感が得られていると見られる。
- ⑮ 新着図書案内の掲示について「知っている」ことについて肯定的回答が、生徒76(65)％、教職員95(95)％となっており、生徒評価が昨年を上回っているっており、新着図書案内の広報・周知の工夫から生徒の書籍に関する興味・関心が高まっていることが分かる様な高水準で推移している。
- ⑯ 図書館利用に関する肯定的評価は、生徒50(47)％と昨年同様の水準となり、生徒の肯定的評価がまだ低い状況にある。今後も生徒の読書指導の推進をする必要がある。図書委員会を中心に活動が活発化しており、今後の動向に期待したい。
- ⑰ いじめ対策指導について「行っている」ことについて「あてはまる」「ややあてはまる」という肯定的回答が、生徒75(67)％、保護者69(76)％、教職員78(83)％である。昨年と比較して生徒の肯定的な回答が大きく上まっている。今後も軽微ないじめも見逃さない、相談しやすい、安全・安心な学校環境の中でいじめから生徒を守る教育相談体制の充実を図りたい。
- ⑱ 体罰等不適切な指導への取り組みについての肯定的評価は生徒79(70)％、保護者80(81)％、教職員76(86)％である。⑰、⑱ともに、教職員の8割が肯定しているが、生徒は7割台となっている。体罰や不適切な指導は、決して行われてはならない行為であり、今後も体罰等の根絶に向けて、学校全体で取り組む。

#### (4) 地域住民に関する分析

「働き方改革」に関連した質問を2項目加えたアンケートを実施している。アンケートの配布・回収方法も地域図書館協力のもと、地域住民が回答しやすい工夫を行っているが、回収数が昨年度15と減少し、今年度は20の回収となっている。次年度については地域住民のアンケート配布、回収について工夫が必要である。

#### (5) 過去数年間の経年変化

- ① 生徒対象アンケートでは、過去5年間と比較して、最も低い評価が多かった令和元年度より高く、今年度は、昨年度と比較して、全体的に高い水準となった。
- ② 保護者対象アンケートでは、肯定的な評価が全体的に増えている。自由意見の中には、身だしなみ指導について、規則違反を注責めることが先ではなく、規則を守ることで良い未来が待っていると希望を持たせる指導をお願いしたいとの意見もあった。生徒の規範意識を高めるためにも、継続した見出しなる指導を行いたい。
- ③ 地域住民対象アンケートでは、昨年と比較すると、ほとんどの項目で肯定的評価が増えている。しかしながら調査標本数が少ないため、来年度の調査で精査する必要がある。
- ④ 教職員対象アンケートでは、肯定的評価が全体的に昨年同様の水準となり回復傾向にある。一方、身だしなみ指導において制服の着用指導の目的やあり方を再確認し、指導内容の検討を行う必要があることがわかった。今後とも教職員間の共通理解に基づく、一丸となった指導の徹底が課題となる。

#### 4 パートナーシップ協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

##### (1) パートナーシップ協議会を実施して得られた成果

・地域の産業界からの貴重なアイデアや意見を伺い、本校への期待、要望などをじかに知ることができた。

##### (2) パートナーシップ協議会を実施して明らかとなった課題

- ・産業教育、企業連携、キャリア教育等の充実のために、今後も地域との親密な連携が重要である。
- ・授業力向上、進路指導の充実について、一層努力することが必要である。
- ・情報発信力の向上が課題である。

5 パートナーシップ協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・産業科高校としての特色を明確にし、保護者及び地域への情報発信の方法について工夫改善して、学校の教育活動に対し理解を得るよう努める。

(2) 学習指導

- ・産業科教育の充実と、「主体的対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みを実践する。

(3) 特別活動

- ・部活動加入率の向上を図り、部活動の活性化を生徒の充実した学校生活の実現へとつなげる。生徒が学校行事における様々な体験活動を通して、学校生活を充実させられるよう努める。

(4) 生活指導

- ・セーフティ教室において警察との連携を図るなど、マナー、ルールの指導を一層充実させ、生徒の規範意識を向上させる。教職員の指導における共通理解と共通実践を課題とする。

(5) 進路指導

- ・キャリア教育のさらなる充実を図り、企業やハローワーク、大学や専門学校などと連携し、生徒の進路実現を叶えるきめ細やかな進路指導を行う。

(6) 健康・安全

- ・SNS使用に関わる問題や、いじめをなくすための指導を継続させ、健康と安全を踏まえた指導を行う。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 11人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	3	1	0	0	0	4

(3) 自由意見（抜粋）

- 少子化が進む中で入試倍率や卒業生の人数も大変安定しています。先生方の努力の賜物かと思います。今後今以上生徒が減りますので、学校の特色かを益々ご努力いただきたいと思います。
- 産業高校としての強みを生かし、地域の施設などとのやりとりをもっと活発にさせていただけると嬉しいです。旧中小企業センターで切子体験などしてくれていたのですが印象的で我が子の進路につながったので切にこうした体験を広くしていただけることを望みます。
- 災害が発生した際、地域社会における学校の役割は重要です。避難所の開設をはじめ、地域のリーダーを高校生に担ってもらえるよう継続した防災訓練をお願いします。
- 資格試験を自分で受けると決めて、諦めず勉強ができています。今まで諦めず勉強したことはなかったので、資格試験を学校がサポートしてくださって大変感謝しています。ありがとうございました！
- 学校が通常に戻るにつれ積極性や好奇心をとり戻してきたように感じます。ものづくりの授業が充実してきているように思います。今後とも、さらに向上心をもって取り組んでほしいです。